

高P連会報

宮城県高等学校PTA連合会 仙台市宮城野区幸町4-5-1 発行者 宮城県青年会館内 TEL・FAX 022-299-4621 E-mail: miyagikopren@

ia2.itkeeper.ne.jp 創文印刷出版株式会社 仙台市青葉区春日町8-34

TEL 022-222-0181 平成26年12月5日(金) 発行日



昭和29(1954)年に創立

10月23日、日立システムズホール仙台を会場に本 会創立60周年を祝う式典が行われた。

昭和23年、文部省が出した「父母と先生の会一教 育民主化の手引き一」によって、本県では46高校中 42校にPTAが生まれ、小・中・高合同の「宮城県 父母教師会連合会」が結成された。その後生徒の発 達段階に応じたPTA活動が必要ということで、昭 和29年5月、小・中・高合同の連合会より分離独立 して、「宮城県高等学校父母教師会連合会」を結成 し全国組織にも加盟し独自の活動を開始した。本会 はその昭和29年を創立の年としている。

その後、幾多の紆余曲折はあったが、おおむね順 調に発展を続け昭和57年には32回全国大会を仙台市 で開催し、バイクの「三ナイ運動」を決議するなど 力を蓄え、現在にいたっている。

発展を祈る祝辞が

式典は野田もと子会長が「60年の歴史を礎に、今 後さらに新しい歴史を積み重ねたい」と決意を述べ る式辞で始まった。その後来賓としておいで下さっ た県教育長髙橋仁氏と全国高P連会長佐野元彦氏か

ら「今後ますます会が発展するように」と激励を込 めた心のこもった祝辞をいただいた。次には本会第 37代会長伊藤均氏の「先輩からのエール」と続き、

短時間ではあった が、厳粛な中に60 年の歴史を振り返 り、これまで本会 を築き上げてきた 諸先輩に敬意を表 することができ



全国高 P 連 佐野元彦会長が祝辞

記念誌も完成

また当日はこの10年間の本会の活動を記録した創 立60周年記念誌『輝き-10年の軌跡-』が各単Pに 配布された。同誌は、60周年の記念事業として、仙 台三桜・仙台向山・仙台南の3校から選出された編 集委員が、2年近くかけて、発刊準備を進めてき た。20回以上の委員会・作業部会を開いて作り上げ たもので、この10年間の県連・支部・単Pの活動記 録の金字塔になると思う。

400余名が集い 2014 フェスティバル

受付準備を10分間で

会場に入場できるのは 9 時。今年は60周年記念式 典も実施するので、受付時間が例年より 1 時間近く も早まった。前日、下準備は済んではいるが、わずか 10分間で準備を完了しなければならない。事務局校 の仙台向山高校からは会員44名が役員として参加。 人海戦術でわずか10分間で準備を完了させた。これ も参加記念のしおり作りをしながら、同校の皆さん が段取りを考えていたおかげだと思った。

フェスティバルの開会式は久保木潤子副会長(仙



受付準備完了 向山高の皆さん

台高) が開 会で、校 接 協会 長氏(か に だいた。

シムル島と釜石の奇跡の共通点

記念講演は宮城学院女子大学長の平川新先生に 「災害の歴史から学ぶこと」という演題でお話しをい ただいた。先生の専門は日本近世史で、東北大学の災 害科学国際研究所の初代所長でもある。古文書から 読み取れる災害の歴史を紹介し、そこから学び取ら なければならないことを語ってくださった。

2004年のインド洋スマトラ沖地震・津波でシムル島では数万の沿岸生活者のうち死者数がわずか7名、東日本大震災で釜石の小中学生の犠牲者は5名にとどめることができた。両者の共通点は過去の自然災害の経験を家庭や地域、学校教育の中で語り伝えたことだ。先生は災害対策を過去に学び、未来に備



講演は宮城学院女子大学長の平川新先生

2年で総会出席率を5倍に

午後は恒例の各支部代表の活動発表が行われた。 今年は、泉(仙塩)、田尻さくら(大崎)、柴田農林(仙 南)、本吉響(本吉)、迫桜(仙北)、石巻好文館(石巻)の 6 校が発表した。

田尻さくら高校は、日野由香会長に加え、生徒2名も 登壇し、学校での生徒同士の交流、教職員とのふれあ いをありのままに紹介し、会場から拍手が起きていた。

本吉響高校は「親が変われば、子供が変わる」をスローガンに停滞していたPTAの改革に取り組み、平成24年14%だった総会参加率を2年後の26年には75%に改善した実績を紹介した。保護者が学校と協力し、出なくても良い総会を出なければならない総

会に変えていかけ」作りは、小山モのより口がある。おり口がある。おり口がある。というないないできないた。



泉高の皆さんはユニフォームで発表

統廃合校に大きな声援

来年度、5つの学校が長い歴史の幕を閉じ、新たに 2つの学校が生まれる。

石巻市立女子と石巻市立女子商が統合して石巻市 立桜坂高校。上沼、米谷工、米山の3校が統合して登米 総合産業高校となり、新しい高校が誕生する。

その5つの高校の会長が「お世話になりました。来 年は新しい名前でフェスティバルに参加します」とお 礼と抱負を語り会場から大きな声援が送られた。



「未来へ羽ばたけ!」の横断幕。登米総合産業高校

60 周年から70 周年につなぐ「輝き」

顧問渡辺尚人(仙台向山高等学校長)

60周年記念誌「輝き」の表紙に はサン・ファン・バウティスタ号 が写っています。江戸時代に支

倉常長を乗せて太平洋をわたった帆船で、現在は石 巻市渡波に係留されています。黒い船体がかすかに 見える水平線に浮かび、空に力強く伸びる帆柱は復 興への強い意志をあらわしているかのようです。

この記念誌には、50周年から60周年までの10年間の歩みがまとめられています。その軌跡の後半は東日本大震災からの復興の時期と重なっています。平成23年3月11日の震災から3年7ヶ月あまりの年月の中で、保護者、生徒、教職員が一丸となって、学校の立て直しに心血を注いできました。その努力と苦労が実り、それぞれの学校のPTA活動は、以前の輝きを取り戻しました。そのような背景があったからこそ、今回、本連合会の60周年の記念式典、そしてみやぎ高校PTAフェスティバル2014を盛会裡に実施することができました。参加してくださった400名を越える方々には心から感謝しています。当日、館内には目に見えない「絆」による一体感が生まれ、各校の発表に対し

て熱い共感と賛意の拍手がわきました。その情景は、 今も私の脳裏に焼きついています。

60周年は一つの節目です。その節目に発刊された60周年記念誌「輝き」は、10年間の歩みを記録した一つの形ですが、これからの10年に向けて、それぞれの学校や本連合会が歩んでいくための指標でもあります。

この冊子に目をとおしながら、次の10年につながる 道筋はどこにあるのかを考えていました。

その答えは、これから の本連合会の活動の集積 にあることは言うまで ありませんが、年に一バ での出会いや交流、つまり もなら り私たちPTA会員が「絆」 を結び直すことによって 新たな道筋が見えてる のではないかとも思って います。



60周年記念誌

福井大会で文科大臣表彰

加美農業高校PTA 会長 中鉢ひろみ

8月22日(金)第64回全国高等学校PTA連合大会が、福井県越前市のサンドーム福井を主会場として、全国から1万人余りの保護者・教員が集まり「教育と考福」をメインテーマに開催されました。その中で、加美農PTAは月1回のあいさつ運動、加美農祭での餅つき、会報の発行、各行事への参加協力など、これまでのPTA活動が高く評価され優良PTA文部科学大臣表彰となりました。

これは、PTA会員の皆様の活躍が評価されたおかげと感謝致します。また、初めての福井県で不安がありましたが、花井事務局長様はじめ、先生方の御尽力のもと無事、福井大会に参加することができました。誠にありがとうございました。

開会式での下村文科大臣の挨拶では、「これから大切なのはグローバル的な見解を持つことである」と、 将来を見据えた貴重な話を聞くことができました。

基調講演では、脳科学者の茂木健一郎氏が、「欠点

のそばに長所があるので、自分の欠点を含めて自分の個性として受け入れることで幸せになることができる」「人間の脳は一生学び続けることが可能であり、自分ができないと思っていたことができるようになった時、ドーパミンが放出され、幸福を感じることができる」という、いろいろ考えさせられた話を聞く事ができました。

とても貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。



加美農業高PTAの皆さん 前列左3人目より中鉢会長・千田校長

館大会に本県より260余

発表しました

白石工業高校PTA 会長 佐藤 利行

私が東北大会で発表することが決まったのは、発 表する約1年前の仙南支部の総会でした。次年度の 支部長なので、嫌な予感はしていたものの、実際に発 表することとなると、やはり避けたいもので何とか 逃れる理由はないのかと考え、会議の中で訴えては みたものの、「これまでは支部長校が行っていた。」と のことでやむを得ず引き受けることとなりました。



十分な時間をもらったこともあり、平成25年度の 東北大会と全国大会にはビデオカメラを持参し出席 しました。これまで何気なく聞いていた発表を、自分 がしなければならないという立場で聞いていると、 どの学校も子供達の活き活きとした写真を使用し、 自分たちの言葉で発表していました。そこで思った のが「白石工業高校の子供達の頑張っている姿」を東 北大会の場で発表できる機会を与えてもらえたん だ。そう思うと俄然やる気が沸いてきました。

発表する内容は担当の先生と協議し、会議を重ね 作成しました。発表の練習は職場に行く前に車の中 で人知れず練習しました。当日の発表は無難に出来 たのではないでしょうか。

何事もチャレンジすることが大事。この発表で、新 たな出会いや、この機会にしか出来ない経験をさせ て頂きました。今は「やって良かった。」と思っていま す。ありがとうございました。

全国大会表彰

団体 仙台南、仙台三桜 個人 大友 美恵(仙台三桜)

東北大会表彰

感謝状 大友 美恵(仙台三桜) 鈴木 宏通(小牛田農林) 阿部 善文(一 迫 商) 表彰状 早坂

陽(仙台南) 相澤 佐藤 小山 正寿(本吉響) 尾地

おめでとう **ごいます!**

千坂 博行(黒 川) 由香(名取北) 正徳(中新田) 堀田菜菜江(上 浩(仙台三)

参加しました

松山高校父母教師会 副会長 千葉 道子 7月5日に秋田県大館市で開催された大会には、 宮城県から総勢260余名が参加しており、皆さんの PTA活動への熱意が感じられました。

松山高校の参加者は「生きることを 子どもと共 に 見つめて」という研究テーマをもとにした、宮城 県・福島県からの発表を聴きました。

福島県立平商業高校のPTA会長さんからは、「負 けない平商を応援する~生徒・学校をサポートする PTA~」と題した発表で、とても興味深い内容でし

同校では、商業高校として進路希望に特化した三 学科を編成しており、充実した施設設備が整備され ているそうです。

PTAとしての関わりでは、6月と10月に朝の登校 指導とあいさつ運動が行われ、地域の方々に良いイ メージを持たれるように生徒たちの後押しをしてい るとのお話でした。

女子生徒のスカート丈については、以前はかなり 短かったのが、次第に"標準"に統一されるように なったそうです。その後、他の高校より「指導方法の 問い合わせ」が相次いだとの話題に、とても感心させ られました。

昼食後には、東京演劇集団「風」による「ヘレン・ケ ラー~ひびき合うものたち~」を観劇しました。他の 高校の役員さんより感想が寄せられましたので紹介

「普段はゆっくり演劇を鑑賞する機会も少なく、久 しぶりのひとときでした。ヘレンとアニーの気迫の

こもった全身を使った演 技に引き込まれ、大変感 動しました。

私は、今年度が副会長 3年目、役員として最後 の年になりました。今回 の大会では、大崎地区の 他の高校の役員さんたち と意見交換する時間もあ り、心に残る有意義な研 修となりました。

これからも、本校はも とより、宮城県内の各高 校の活発なPTA活動を 期待しております。



松山高校の参加者の皆さん